

入試情報

入試日	願書提出	合格発表	内申点計算方法
<p>■ 一般入試 3/9(水)</p>	2/5(木) ~12(木)	3/16(水)	<p>[中1]5×5教科×2+5×実技4教科×3倍=110点 [中2]5×5教科×4+5×実技4教科×6倍=220点 [中3]5×5教科×6+5×実技4教科×9倍=330点 計660点のうちの2/3の440点が満点となる。</p>

教育のプロ
トライさん



傾向

一般入学者選抜試験は、学力検査と内申書と面接で合否が判定され、3つの選考種類がある。

A選考: 学力検査と内申点・面接の配点比を5:5とする均等型で、必ず実施される。

B選考: 内申点・面接を重視

C選考: 学力検査を重視

B選考とC選考の採択と順序は学校ごとに異なる。B選考、C選考学力検査と内申点・面接の比重は学校により異なる。

学力検査は、どの分野も万遍なく出題されているため、苦手な分野を1つでも多く克服することが点数アップのポイントになる。

科目別対策

英語

昨年より大問の数が増えて、10問構成になった。リスニング、文法適語選択、長文読解、対話文で構成され、英作文が複数出題される。問題量が多く、長文読解は深い内容理解が求められるので、長文読解以外を正確に速く解く必要がある。英作文は配点が高いので、基本的な例文で対策しておこう。例文の一部を書き換えるなど、様々な種類の英作文を練習し、十分な対策をすること。

数学

大問13問で構成。大問1の小問集合は、20点と配点が大いなので、得点源としたい。途中式や定理などを書きながら解く習慣をつけよう。図形の証明は頻出で、配点は10点と大きいので、少し難易度が高いものを繰り返し練習して備えておくこと。関数の問題は難易度が高い問題が頻出。記述問題は全文記述なので、正確な知識が必要。過去問などで演習をしておきたい。

国語

大問6問で構成。小説と説明文で50点以上の配点があるので、この2問に時間をかけられるようにしよう。記述問題が多いことが最大の特徴で、複数の資料をもとに記述する問題もある。資料を読み解く力、情報を整理して書く力が必要なので、過去問を繰り返し解いて対策しよう。文法や詩・古文・漢文などからも幅広く出題される。どの分野も基本事項をしっかり身につける必要がある。

理科

大問7問で構成。各分野がバランスよく出題されている。記述式が多いのが近年の特徴。実験や観察が重視されているため、実験結果から考察を書く問題やグラフを書く問題が頻出。用語や結果を覚えておくだけでは対応できないので、実験や観察に関わる単元は特に重点的に対策しよう。教科書だけではなく問題集や資料集をよく読んで、理解しながら学習を進めたい。

社会

大問9問で構成。選択問題が大半を占めているが、公民では記述問題が頻出。資料を読み取った上で、文末語句と文字数の条件に沿って記述するので、自分の意見を簡潔にまとめる力が求められる。年代や用語の暗記だけでなく、日頃から資料を読み解く問題に取り組んでおくこと。時事問題対策として、ニュースや新聞をよく読み、関心を持っておくこと。自分の意見を述べるができることさらに良い。